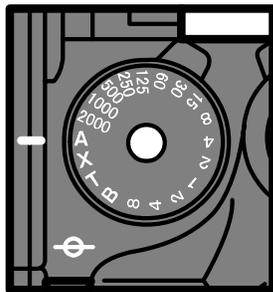
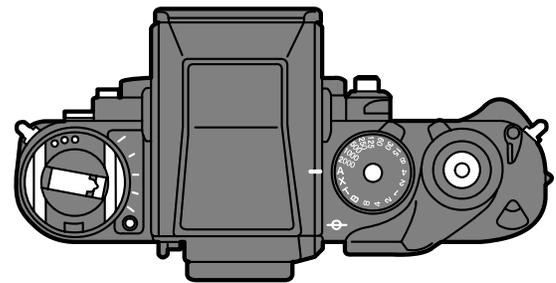
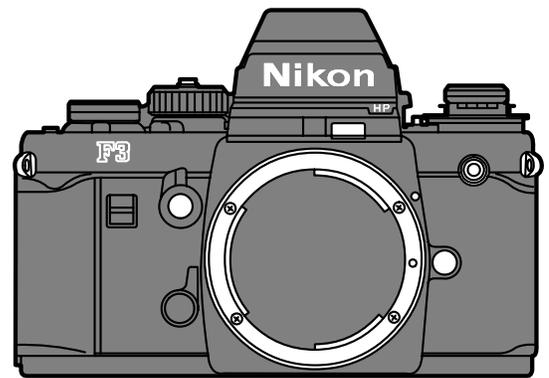


Nikon F3

スペック	
シャッター	1/2000～8秒・B・T・X（電子シャッター）
X接点	1/80秒
測光方式	中央部重点測光（ほぼ部分測光に近い）
撮影モード	絞り優先／マニュアル
サイズ	148.5×101.5×65.5mm
重量	715g(F3) / 760g (F3HP) / 740g(F3/T)
発売年	1980年
新品価格	- 絶版 -
中古相場	75,000前後(F3)/85,000前後(F3HP)/110,000前後(F3/T)
備考	ファインダー及びファインダースクリーン交換可。 モータードライブ装着可。 露出計は液晶によるデジタル表示。 絞り値は光学直読式。 ミラーアップ可能。 多重露出可能。 ファインダー視野率100% ファインダー倍率0.8倍(F3)/0.75倍(F3HP・F3/T)



1980年にNikon EMと同時に発売されて以来、20年もの長きに渡って発売され続けている。今の世の中、20年前のモデルが立派に現行機種として通用するものは他にない。その理由は、実際に手に取って操作してみればすぐに分かるはずだ。

ちょっとした操作感や耐久性のために、カタログスペックにはのぼらない部分についても、十分に時間をかけた設計が行われている。コイツは車で言えばメルセデス・ベンツだ（実際、初期のF3のグリップ部分には、ベンツのステアリングに張られたレザーと同じ素材が使われた）。

また、電池消耗時に使用する「緊急作動レバー」もあり、まるで何かの任務をおびたカメラのようで実に楽しい。

特筆すべきは、巻き上げレバーが劇的に軽いということだ。もちろん、小刻み巻き上げも可能だ。ただしプロ用として割り切ったのか、露出計の表示が小さく見づらい。

どうせカメラという高い買い物をするのだから、中古のF3よりも思い切って新品を購入し、そこから使い込んでいくほうがいい。

チタンボディのF3/Tもあるが、こちらは22万円。

（追記：2000年10月末をもって、全F3生産完了。）

我輩は、このF3がニコンの生物顕微鏡のカタログに「一付属品」として掲載されているのを見た。数百万円もの顕微鏡システムの中に見事に溶け込むF3の姿。ダイヤルに刻まれたシャッタースピードと、顕微鏡の倍率刻印が見事に統一されている。それはまさしく研究設備の一部であり、F3にとっては公務であるのだ。我々は、その研究設備を「遊びや趣味で使う」という贅沢を堪能することができる。

F3のボディには、テブラの管理番号がよく似合う。

（F3には、ノーマルの「F3アイレベル」、アイポイントの長い「F3HP」、チタン外装の「F3/T」、オートフォーカス仕様の「F3AF」、報道向けの「F3P」、限定用の「F3/Limited」、ハイスピードモーターの「F3H」がある）